

より多くの記事に簡単な説明でもいいから入れて欲しいというご要望から、要約や説明も入れました。翻訳に関しては、人手と時間に制限があるため、つたない文章であり恐縮ですが、オウム達の最新情報について少しでも触れていただければ幸いです。(メッセージの度合いが濃い記事は、丁寧語で、ニュース、レポートなどは、一般の記事に使われる平坦な文で書かれています)。今回は、テレパシーで有名なヨウムのニキシの記事や、ヨウムのせいで浮気がばれた記事、カリフォルニアで観光名所ともなった野生化したオウムの群れなど、一般の生活に関する記事も入っていますので、お楽しみください。

目次 (CONTENTS)

Fly free continued	2
Trading parrots revisited	3
Blue-throated Macaw breeding highlights	4-8
Advancing the knowledge of New Zealand's Red-crowned Kakariki	9
Observations of the Yellow-crested Cockatoo	10-11
WPT USA moves to Florida!	11
What to do about the flu	12
Ten easy steps to avoid bird flu	12
The dove, the shearwater, the mockingbird and the parakeet	13
A new hybrid population near Arusha	14
Military Macaw nesting cliff in Mexico	15
Psitta News	16-18
WPT USA wins IAATE award	19
WPT general info	19
Parrots in the wild - Socorro Parakeets	20

Fly Free continued——EU extends temporary ban, sparing another million wild birds

EUは鳥の輸入禁止期間を延長し、(それによって)百万羽もの野鳥が救われる

By JAMIE GILARDI (WPTディレクター)

EUは去年の10月から、鳥インフルエンザ対策として、野鳥の輸入を禁止しています。これによって、何千という鳥の命が救われています。しかし、これは鳥の命を、ひどい捕獲過程から救うだけでなく、商業用の捕獲自体がおかしいのではないかという意識を高めることにもなります。最初の一ヶ月の輸入禁止の後、さらに輸入禁止が2ヶ月間延長されました。それはとても喜ばしいことです。禁止の延長は、病気のリスクについてだけでなく、保護活動や福祉に野鳥貿易が与える影響を論じる機会を与えました。WPTとその他の団体の集まりは、これを契機にUKやEU政府に野鳥貿易についてデータを提供する立場となりました。WPTのメンバーは、シタシーンを読んでよくご存知ですが、我々は、野鳥貿易の禁止を長い間訴えてきました。ですので、政府関係にこの事態をよく分かってもらうために我々は忙しく活動しています。

今回、輸入禁止期間の期限切れが近づき、心配していましたので、EUの健康と消費者保護理事会 (the Directorate General for Health and Consumer Protection) の長であるEU事務局長 Kyprianou が輸入禁止を延長した時には、ほっとしました。5月の末まで延長されました。

野鳥宣言 (Wild Bird Declaration) を2004年の12月にEUに提出してから、EU市場で何羽の鳥が捕獲されているのかを調べてきました。(<http://birdsareforwatching.org> 参照)。輸入禁止が10月に宣言されたその日までに、捕獲された数は100万羽にもなっていました。今度は、その輸入禁止以来、どれだけの鳥が捕まえられずに済んだかを数えてきました。現在までに、130万羽に登っています。5月の終わりまでには、200万羽になるでしょう。

WPTのメンバー、オウム好き、保護、福祉団体からのサポートと共に、この素晴らしい結果を喜んでいいはず。この輸入禁止を永久的なものにするため、この先、がんばって行きますので、よろしく願いいたします。*WPTジャパンのメンバーのサポートにとっても感謝しております。有難うございます!

Trading parrots revisited——can ex-trappers develop alternatives to harvesting wild birds?

元捕獲者は野鳥捕獲の代わりになるものを見つけられるか?

By JAMIE GILARDI

活動がどのような結果をもたらすのかを予測するのは難しいです。特に、外国との貿易が絡む時は、アメリカが1992年に殆どの野鳥の輸入を禁止した時のゴールは、破壊的な捕獲と、それに関して鳥の個体群が減ることを防ぐためでした。それによって、予想外の結果がありました。違法捕獲が減り、合法捕獲が終わりました。その他には、アメリカの鳥類飼養での病気の広がり減ったこともあげられます。

もちろん、すべての人がこのような結果を喜んだわけではありません。特に、10月までEUに、野鳥を何百羽も提供していた人達がそうです。EUは90%もの世界の貿易を占め、それが突然なくなったのですから。鳥を捕

獲していた者たちに、その影響は出ます。WPTは鳥を優先しますが、鳥と生息地を共にする人々のことも考えます。彼らの多くは、貧しいからです。

以前のシタシーンで、マーク ジョンソンがお伝えしたようにギアナではエコツーリズムプログラムを推進しています。現地民が行うオウム捕獲の金額はその労力に見合ったものではありません。そこで、現地民の作るオウムの手芸品などを捕獲の鳥と替えることはできないだろうかと考えました。

マークによると、ギアナの現地民は、ゴムの木から得られるゴムを使ってオウム、オオハシ、その他の鳥の置物を彫っています。輸入禁止によって減った収入を取り戻すため、WPTのメンバーがこのような置物を楽しむためにサポートしていただければと考えています。手作りのため、一つ一つの形が少々違いますことをご了承願います。大型のオウム達は群れているのが好きなように、ご購入もまとめて買っていただければと思います！

UKかUSオフィスを通して（19ページ参照）、一つが、3UKポンド、または5米ドル、そして、5つのセットが12UKポンド、または20米ドルで販売しています。

Separate Box (別枠)

Nappi の森には balata というゴムの木が点在しています。何世代も、これらの木から、ゴムが採られ、その中のいくつかの木は樹齢何百年にもなります。これらの木はギアナの Rupununi 地域で、今や持続可能な資源として用いられています。George Tancredo は、この村の最初のバラタアーティストで、フォスターパロットに今回、雇われることになり、その他のアーティストにも彼のようになるよう奨めています。ジョージは、この手工芸がもっと体系的に行われるよう取り組んでいます。

Saving Bolivia's Blue-throated Macaw——Highlights from the 2005 breeding season

ボリビアのアオキコンゴウを救う——2005年の繁殖期のハイライトから

By TOA KYLE トア カイリ

私が大学院に行っていた頃、保護活動についての知恵についてよく話し合った。絶滅危惧の一種に何億円も使うことについては批判的だった。それよりも、その種が生息するエコシステム自体を保存することに重点を置くべきだと言っていた。理論的には、生息地を守ることによってその中に生きる種を助け、それと同時に時間とお金を節約できるはずである。それから十年ほどが過ぎ、アオキコンゴウインコ Blue-throated Macaws (*Ara glaucogularis*)の巣を観測し始めて3年目になり、生息地を守るだけでは十分でないことが分かった。それは、特にこの種に当てはまり、自然もその繁殖を妨げることがある。

毎年、新たな問題が、つがいを襲うのである。私の最初の年であった2003年は、アオキコンゴウよりひと回り大きいルリコンゴウインコとの競争が問題になった。時間の経過と共に、営巣に適した巣穴の半分はルリコンゴウインコに取られてしまった。

その次の年には、ほとんどの巣が敵に襲われた。現在は、普段より雨量の多い雨季の後に来た乾季と、これらの問題によってかげりが出ている。繁殖が失敗は天気のせいかどうかははっきりしない場合が多いが、今回の場合は、天気が繁殖に悪影響を与えたのは明らかだった。

去年は、3人であちこちに散在するアオキコンゴウインコの巣を監視しようとしたが、3人では十分ではなかったので、今期はスタッフを増やすことにした。4輪駆動を購入できたことが、活動スタッフの数増加を可能にした。

インターネットでボランティアを募集した。ボランティアを採用することは価値があると思う。なぜなら、1997年、私自身、コスタリカのヒワコンゴウインコ (*Great Green Macaw (Ara ambigua)*) のボランティアとして始めたからだ。ボランティアの中には異なる自然や文化を訪ねるために参加する者もいれば、大学院の研究のためにするもの、また、同じようなプログラムを自国で始めるためのきっかけにする者もいる。

私は、ボランティアを採用するのが今回初めてだったので、その応募者の数の多さに驚いた。野外研究の2つのサイトに広告を載せるやいなや、その他のサイトがその広告を紹介してくれた。60人の人が応募して、大半が若い生物学者達だった。最終的に11人に絞った。彼らは9カ国からきていて、半分は中南米からであった。

今年のチームに加えられた中で、ベニ自治大学のベンジャミン オリベイラ Benjamin Oliveira を特に歓迎した。獣医学を学んでいる彼がアオキコンゴウの保護活動を卒業論文にしたいというのは面白いケースだ。（移動用に使う）馬の面倒を見てくれた彼の獣医学の知識に感謝している。彼の体力は、我々を何度も泥沼から助け出してくれた。彼の体格に似合わず、彼は私が今まで知る中で一番穏やかなボリビア人だった。

今回の保護活動は、空が煙で白む8月上旬に始まった。ひどい乾季がこの地域を5月から9月まで襲った。5ヶ月の間、一粒の雨もなかった。アオキコンゴウが住む辺りは、焼畑が行われる。まったく降らない雨のため、5ヶ月の間、火は燃え続けるばかりであった。

その結果、トリニダ（近くの町）での空気もひどく、赤ん坊などは、酸素吸入器を病院で付けなければいけないこともあった。ほとんどの野外チームメンバーは、ひどい咳に9月下旬頃から悩まされた。あまりにも乾燥しているため、ちょっとした火でも遠い所まで燃え広がった。火が一旦広まれば、手に負えなくなる。アオキコンゴウにとって、旱魃と火は短期、長期にわたって、影響を与えた。

9月の始め、2004年の観察で見つけた巣を訪ねてみた。日の出とともに、巣の方へ飛んでいくペアを見た。メスは、巣の中に入って行き、入り口にとまり、ヒナを育てる前の母鳥のようであった。他の場所も観察した後、その場所に戻ってみると、かなりひどい火が、その地域を燃えつくしてしまったのを目の当たりにした。巣のあった木は、残っていたが、その周りはずっかり焼けてしまっていた。過去3年間の間に、アオキコンゴウをよく見かけたパームツリーの森も、燃えてしまっていた。Motacú palms というパームツリーはアオキコンゴウにとってなくてはならないものだ。その後、この巣の周りには Motacú palms も、アオキコンゴウも見かけることはなかった。二つのつがいは、この火事の影響で、営巣をあきらめ、どこかへ行ってしまったようだ。火が焼いてしまったココナッツや、倒れてしまった巣のある木が与えるダメージはすぐに明らかになるが、その他の長期の影響はわからない。被害を受けたパームツリーは、葉を茂らせるためにエネルギーを使い、それは、ココナッツの成長に影響するだろう。そのココナッツの減少は、アオキコンゴウの餌の減少につながる。したがって、この火事の影響は今後も続くだろう。

今期の目標は6つの巣を観察することだった。2004年に2つの巣を3人で観察したことを思うと、メンバーの数が3倍になったのだから、達成できそうな数なはず。ある意味で、ゴールは達成できた。アオキコンゴウインコが興味を示した巣穴を14見つけた。その中で、6つが実際に使われた。残念ながら、その中の5つは、抱卵の最終段階で失敗した。原因は多岐にわたるが、一番考えられるのは、ひどい豪雨だろう。

乾季の後、このペニ州に、九月の終わり、やっと雨が来た。それは、何年もの間見たことがないほど、ひどいものだった。サンタクルス（アオキコンゴウの生息地の近くにある）の北では、大豆やトウモロコシが15000ヘクタールの範囲で被害を受けた。一緒に働いていた仲間が、一度ひどい嵐にあった。馬に乗ってキャンプ地に戻る時であった。雨風がひどく、馬は真っ直ぐ進めず、横向きに進まざるをえなかった。その間、雷が彼から50メートル以内の範囲で落ちた。彼は「もう駄目だ」と思ったという。

アオキコンゴウインコの三分の二の巣のある木は、死んだ木（生えているが、成長せず枯れている）であるので、このような暴風雨は、木に多大な影響を与える。枯れ木の一つの天辺が嵐でえぐられ、つがいは、この木を去った。残念なことに、この木の根元に割れた卵の殻が見つかった。この木が被害を受けたのは、ヒナがちょうど孵ったところだったようだ。その他のパームツリーの巣には一晩で7センチもの雨が降り注いだ。

次の朝、オスが枯れ木の上にとまり、中を覗きながら、メスと呼ぶのを見た。メスに卵を続けるようにとさしている。しかしながら、このオスの努力もむなしく、つがいは巣を捨てた。その後、巣をチェックしてみると、2個の卵が水浸しの巣穴の中に見つかった。もう3つの捨てられた巣も同じような結果であった。ひどい雨のあと、巣は捨てられたが、興味深いことに、その後、暫くたってからもう一度チェックすると、卵はなかった。洪水に合い、放棄された巣は、天敵によって卵をとられた、または、メスが離れている間に天敵にあったのだろう。

理想的には、巣穴になりそうな穴に雨がたまらないように、排水用の穴を開けることもできたろう。それをしなかったのには理由がある。これらの失敗した巣穴が見つかった時、抱卵はすでに始まっていた。穴を開けたりする作業によって、鳥を驚かし、巣を放棄させなくなかった。2004年の経験から、アオキコンゴウは、ヒナが孵った時点では、巣を放棄しにくいことを学んでいた。しかしながら、抱卵の時期は巣の放棄の確率が高い。

だから、抱卵の時には、できるだけ邪魔しないようにしていたのだ。もう一つには、このパームツリーが枯れ木であることがあげられる。穴を開けるために登るのに、頂上にロープをかけるのが難しいのだ。枯れ木はもろいから、我々が登る時に、木が倒れる恐れがある。竹で作ったはしごとロープで、巣穴に重みをかけないようにしたが、いくつかの枯れ木は10m以上の高さで、竹のはしごでは届かない。次回のシーズンのために、アルミで造った軽いはしごをショッピングリストに入れた。

葉で覆われていない枯れ木は水浸しになり、巣が潰れることもあるのに、アオキコンゴウはなぜ motacú の枯れ木を選ぶのだろうか。枯れ木であることで、穴が掘りやすいということが一つの理由になりえる。枯れた motacú の木の中心は、乾いて、フサフサの繊維がある。これは、アオキコンゴウによって容易に取り除かれることができる。つがいは、一週間以内に、巣穴を掘ることが出来ると聞いたことがある。枯れ木でない、しかも、硬い種の木にある巣穴は、アオキコンゴウより大きくて強いルリコンゴウインコに占領されている可能性も考えられる。結果として、アオキコンゴウは、質の劣る motacú に巣をつくるのだろうか。

最後の理由としては、以前に行われた伐採によって、硬い種の木とその巣穴が、取り去られてしまい、アオキコンゴウには motacú の枯れ木が残されたのではないか。

今期には残念なことがあったが、いいこともあった。現在、我々が把握しているアオキコンゴウのすべては、個人所有の土地に住んでいる。所有者は、放牧をしている。彼らの協力がアオキコンゴウの回復には不可欠である。これを念頭に、これについては、今期は成功だったといえる。

牧場主から得た協力は、ただ単に、彼らの所有地に入らせてもらうというのだけにはどどまらなかった。二つの農場では、我々に泊まれる部屋と馬まで貸してくれた。雨がひどかったので、馬を使えるというのはとても有難かった。水浸しになった所ではバイクやトラックは役に立たない。我々が受けたその他の協力は、アオキコンゴウが

住んでいない所の牧場主が彼の小型飛行機を使わせてくれたことだった。洪水のため、飛行機なしでは、到着できない場所に行くことができた。

今回は、スタッフの数が多かったので、得た情報のレベルが高かった。例えば、今になって2004年はアオキコンゴウのヒナにとってはいい年であったということが分かった。それ以前には、一年未満のヒナは3、4羽しか見ることがなかった。しかし、2004年は、トリニダの北で合計8羽ものヒナを見た。そして、その中の2羽がトリニダの南の個体群に合流したことがわかっている。一見するとこの数字はとても小さいように見えるが、現在野生にのこっているアオキコンゴウが100羽前後であることを考えると、この数字が「沢山」であることがわかる。2004年の降水量は1メートルで、2005年より多かった。

降水量の高さが、ヒナの繁殖を意味するのにはまだ分からない。そして、アオキコンゴウが、それ程、一つのところにじっとしていないことが明らかになってきた。過去には、森林の島のひとつに行けば、必ず、一つのつがいを見つけることができた。しかし、2005年は違った。早魃と火事で鳥達の中には彼らのテリトリーを離れたものがある。生息地の質とアオキコンゴウの分布の関係を調べる必要がある。ラジオテレメトリーを使えば、元々の生息地を離れた後、どこに行くのかを知れるだろう。

どのような巣が繁殖の失敗につながるかが分かってきた。以前は、例えば、つがいが巣を守っているのを見つけたとする。そして、一ヵ月後にそこに戻り、何の繁殖活動も行われていないのを見て、何が起こったのかさっぱりわからずじまいだった。今期は、その疑問にも答えが見えることがあった。木に穴を掘っている間に、巣が吹き飛ばされたことがあった。他の巣は、大型の鳥に占拠された。その中の二つは、オオハシ (*Toco Toucans Ramphastos toco*) に取られた。オオハシがアオキコンゴウの巣にある卵やヒナを襲うことは知っていたが、巣穴をめぐる取り合いすることは知らなかった。

今年は本当にいい年ではなかった。14の繁殖可能であろう巣のたった一つから、一羽のヒナが巣立っただけから。これから見ても、なぜ、この種の個体数が少なく、個体数回復が難しいのかが説明できる。70年代と80年代に何百、何千羽ものアオキコンゴウが捕獲され影響もあるであろう。

元違法捕獲者と過去2シーズンこの保護活動を行ったことがある。彼曰く、彼が捕獲をしていた時は、1グループ16羽で構成される鳥の群れをいくつも見たらしい。今日では、8羽で構成されるグループを見つけたら大喜びという具合なのに。個体群が大きい方が、その他のコンゴウインコ類と巣や餌をめぐる競争に有利である。6-8羽のルリコンゴウが同じ巣を狙い、それを、何とか防衛しようとして、失敗したアオキコンゴウのつがいを見たことがある。多分、これらのルリコンゴウの大きなグループは、互いに血縁関係があり、巣の確保について助け合っているのではないだろうか。数で劣ってしまうアオキコンゴウは、ルリコンゴウが狙わないような余った巣を使うしかない。

いい巣が残っていないということを鑑みて、現在残っている巣の質の改善か、自然に残っているのよりいい人工の巣箱を用意する必要がある。ベニではピート ハバーソン氏と一緒に働けてよかった。ピートはシマホンセイインコのプロジェクトのためにモリシャスで3期間働いたことがある。そのおかげで、この種がどのように回復したかの情報を沢山知っている。人工の巣箱を取り付けることはそう簡単ではないのだが。ピートが言うには、シマホンセイインコが気に入る巣箱を開発するまでに、100種類のモデルを試したらしい。この時点で、現存する木に穴を掘る方がよさそうだという気になってきた。穴を掘るのをすこしでも楽にするために、太陽エネルギーを使った道具を用いたらどうかと思う。ピートと話すことによって、我々がアオキコンゴウ保護の過程でどのあたりにいるのか、そして、まだどのくらい残っているのかの検討がついた。モリシャスの状況が好転したのは1年や2年のことではない。何年も何年も経験を積み重ねてきた結果なのだ。

何とかなるだろうと願い、そして、良好な気候を願うだけでは、駄目なのだということが分かった。2005年には、繁殖活動の失敗率は、以前思っていたより高かった。もっと積極的な巣穴の管理が必要なのは明らかである。抱卵（またはヒナを温めている）を行っている巣の構成を整える必要がある。我々が守ることによって、親鳥が巣を捨ててしまうことを恐れすぎている、巣は結局、失敗に終わるだろう。2006年に向けて、2005年に習ったことを生かす必要がある。

Advancing the knowledge of New Zealand's Red-crowned Kakariki

(訳、要約なし)

Recent observations of the critically endangered *Sulphurea* subspecies of Yellow-crested Cockatoo

絶滅の危機に瀕するコバタンの亜種

By DUDI NANDIKA, S. Si, Department of Biology, As-Syafi 'iyah Islamic University, Jakarta, Indonesia

コバタンはインドネシアの種で、CITESの附属書Iに登録されているコッカトゥー5種類の一つである。この種は4つの亜種からなる (*parvula*, *abbotti*, *citronocristata* and *sulphurea*)。最後の亜種は、インドネシアの島、スラウェシにしか生息しない。現在の研究から、そのほかの場所にも生存する可能性があるが、残りのコッカトゥーは、スラウェシの南東、Rawa Aopa Watumohai 国立公園(RAWNP)とブトン島そして、スラウェシの中心、パソソ島に限られている。

これらの中で、RAWNPが一番重要である。RAWNPにはサバンナ、マングローブの森、沼地の森など7つのエコシステムタイプがある。2000年には、インドネシア森林省 (PHKA), バードライフインドネシア (BirdLife Indonesia) そして YASCITA (Yayasan Cinta Alam-Kendari team)がコバタン (C. sulphurea sulphurea) の100羽前後いる個体群の調査を引き受けた。それから5年経った現在の調査では、このコバタンの亜種のステータスと行動を調査するために行われている。

Population and nests 個体群と巣

この調査は朝の5時半と夕方5時、一日二回行われることから始まった。合計37羽のコッカトゥーが7つの調査場所で記録された。これによって、1000平方キロメートルのなかに1.3羽という極端に低い密度が判明した。これは、その他のもっと絶滅の危機にあるといわれる亜種 C. sulphurea と the Citron-crested cockatoo C.s. citronocristata よりも少ないことになる。6つのコッカトゥーの巣穴らしきものが確認された。その中の少なくとも2つでは、繁殖活動が行われているようだ。

Daily activities 日常の行動

朝、彼らの行動は、木に止まる (観察時間の43%)、餌を食べる (12%)、遊ぶ (22%)、その他 (動く、日光浴、羽づくろい) (22%) である。午後は、餌を食べる (30%)、木に止まる (27%)、遊びが減り、他の鳥と関わるが1%から9%に増える。コッカトゥーはあまり茂っていない中間に位置するキャノピーによく見られ (61%)、その次に上部のキャノピーによくいる。

中間のキャノピーでする行動をパーセンテージで表すと以下ようになる。他の鳥と関わる100%、餌を食べる51%、動き回る71%。フルーツと若葉を食べている時、コッカトゥーは真ん中か頂上に位置する枝にいる。上部の乾いた枝にいる時は、殆ど、監視している (敵などがいないか)。キャノピーの真ん中辺りの層がコッカトゥーにとっては、敵から身を守ったり、直射日光を避けたり出来るいい場所であるようだ。キャノピーの最下部は、枝に止まったり、動き回ったりする時のみに限られている。Laeaの場所でもよく使われた植物の種類は、Bitti (Vitex coffasus and vitex glabra), Kuyia (Alstonia scholaris), Bamboo (Bamboosa spinosa), Behi spp, and Soasoarate である。インドネシアにいる野生のコッカトゥーの食べ物の好みに関する情報は限られている。10種類の木、低木、植物が観察されている。

コッカトゥーは材木になる木 kayu besi (Intsia bijuga) などの果実を食べるため、伐採は、巣を破壊するだけでなく、少なくとも早魃の年には、餌不足という悪影響をこうむることが考えられる。現地民が、食物の乏しい乾季に、コッカトゥーは、畑によく来るようになることを教えてくれた。他の者によって観察されたコッカトゥーが食べるであろうものは、フルーツ、maizeの種 (Zea mays); パナナ Musa; マンゴ (Mangifera indica); パパイア (Carica papaya); イチジク (Ficus); グアバ (Psidium guajava); jambu bol (Eugenia malaccensis); "kedondong batu"; "marang taipa"; prickly なし (Opuntia elation); srikaya (Annona squamosa); ココナッツの花 (Cocos nucifer); タマリンド (Tamarindus indica); マングローブの花と実 (Avicennia); fruit of marangtaipa (Dehaasia) and young leaves of Sonneratia; "ninifo" など。

コッカトゥー達は、オウムでない鳥類と接触を持っているのが観察された。Coracias temminckii, (a purple-winged roller) で、巣穴をめぐって争っていた。Aplonis panayensis (a Philippine glossy starling) はコッカトゥーを追い回していた。Spilornis rufipectus (a Sulawesi serpent-eagle) 鷹類 でこれは一羽のコッカトゥーを追いかけていた。

Concluding remarks 最後に

2, 3百羽のコバタンがスラウェシに生き残っている可能性がある。その中でも、繁殖可能な個体群は3分の1か、多くても半分ぐらいだろう。農作物の害鳥として以前は知られていたほど数が多かったし、世界中のコッカトゥー市場のなかでも一番手に入り易いものだった。一番数が多いこの場所でも個体数はとても少なく、減少傾向にある可能性がある。継続的な捕獲と、生息地の減少で、パロット アクション プランの中では、回復不可能の可能性ありと示されている。もし、世界がこの美しいコッカトゥーをあきらめてしまうのなら、それはとても残念なことである。

謝辞

Stewart A. Metz, M.D (インドネシア パロット プロジェクトとプロジェクト バード ワッチのディレクター) メッツ氏には、このリサーチの資金を提供していただいた。

この研究の計画と実行の手助けをしていただいた以下の方々にお礼を申し上げたい

Biology Department of As-Syaff'iyah Islamic University, Profauna Indonesia, BirdLife Indonesia and Asia, Yascita, Yari, PHPA and BKSDA of Southeast Sulawesi, Hukaea-Laeaの現地の方々, Jakarta Birdwatcher Communityの友人達、そして、Mahacala Halualeo University。特に、Dwi Agustinaにも、お礼を申し上げたい。

WPT-USA moves to Florida!——WPT-USA がフロリダに引越しました！

ジョアナ エクレスは、WPT USの庶務を7年間担当してきました。それを、WPTの長年のサポーターであるグレン レイノルズに引継ぎをすることとなりました。そのため、WPTUSの事務所が、ミネソタからフロリダに変わりました。今後、ジョアナはシタシーンの編集、メンバーや寄付をしてくださる方とのコミュニケーション、集会でのプレゼンテーションに関わります。新しい体制に今後ともよろしくお願いいたします。

キャプション Caption:

ジョアナとそのヘルパー、トリアナ、そして、グレンは、Rollx 社長のマイク ハリスから思ってもいなかったサポートを得ました。この会社は、ミネソタにあり、障害者のためにバンを改良します。WPT USの荷物を、ただで、ミネソタからフロリダまで運んでくれました。

What to do about the flu Part three——鳥インフルエンザにどう対処するか パート3

By JAMIE GILARDI

一度は弱まったように見えた鳥インフルエンザ H5N1 型は、また、勢いを取り戻したようです。最近では、ナイジェリアの養鶏所やヨーロッパの白鳥などでも見られました。 (<http://worldparrottrust.org/flu> で、情報を確認できます (英語))。

インフルエンザに備えるため、ペットの鳥は、野外に出さない方がいいのですが、もし、それが出来ない場合の対策をここに並べてみました。

1. 野鳥が来ない場所で、あなたの鳥に餌や水をやる。
2. 野鳥と接触しないよう、鳥小屋などを覆う。
3. ペット鳥に野鳥が近づかないように、野鳥の餌台を遠くに置いたり、野鳥の好きな茂みを刈り込んだりする。

Ten easy steps to avoid bird flu for you and your birds——鳥インフルエンザにあなた自身とあなたの鳥が罹らないための 10 の方法

鳥インフルエンザに罹る場合は、病気の鳥と直接の接触をもった場合が殆どですので、どうしても、野鳥などを触らなければいけない場合は、ゴム手袋をし、紙マスク (アメリカの基準でN95より優れているもの) を着用しましょう。もし、風邪のような症状がでましたら、すぐに医者にご相談しましょう。

1. もし、鳥を飼っているなら外部との接触を避けましょう。飼い鳥であれ、野鳥であれ、新しい鳥をあなたの鳥の仲間に入れるのは避けましょう。出来れば、獣医さんにあなたの鳥をチェックしてもらった方がいいでしょう。
2. 餌台を含め、小鳥やカモ類などに餌をやるのは止めましょう。どうしてもしたいのなら、手袋、マスク、エプロンなどを付け、餌台や水飲み場の清掃時の衛生に気を配りましょう。野鳥の餌などは、ペットの鳥に接触しないようにしましょう。
3. 街中にある鳩やすずめが沢山いる場所は避けた方がいいでしょう。鳩などの糞が溜まっているビルの一角なども普段から気を付け、避けましょう。
4. 夏になり、水鳥 (カモ、白鳥、カモメなど) がよく見られる水辺 (海、浜辺、川、池)などで、泳ぐのは止めましょう。
5. 牧場や養鶏所へは特別な理由がない限り、行くのは止めましょう。どうしても行かなければいけない場合は、服装、手洗いなど、衛生に十分注意しましょう。
6. スポーツや食用などの狩りで、野鳥と接触するのは避けましょう。特に、水鳥を食べるのは避けましょう。現在のところ、野鳥の中では水鳥が一番リスクが高いようです。
7. 死んでいる鳥や病気の鳥を見つけたら、接触を避けましょう。外にいる猫は鳥を捕まえる可能性があるため気を付けましょう。猫から人間への感染例は報告されていませんが、アジアとヨーロッパで猫が感染した例があります。
8. もし、七面鳥、鶏、水鳥を食べるのなら、よく調理しましょう。商業用の卵は消毒済みですが、やはり衛生には気を付けましょう。もし、自分の鶏、近所の人のおすそ分けの鶏などからの卵は、野鳥と接するのと同じように、衛生面に気を付けましょう。
9. もし、食用で鶏を自分自身で殺すのであれば、ゴム手袋、防水エプロン、マスクなどを着用しましょう。
10. もし、火のおおっていない鶏をこれから調理するのであれば、同じように服装等に十分気を付け、ナイフなどの調理器具の消毒も行いましょう。

The dove, the shearwater, the mockingbird and the parakeet——why Socorro Island is a global conservation priority

鳩、みずなぎ鳥、まねしつぐみと、インコ (オキノテリハメキシコインコ) ——なぜソコロ島が保護活動に重要なのか

By JUAN ESTEBAN MARTINEZ GÓMEZ

ソコロ島は、バハ カリフォルニアの先端から離れた大西洋にある。この島には、群島の中では一番高い火山があり、動植物の多様性に富んでいる。すべての脊椎動物の種、または、亜種はこの島だけに見られる。したがって、

Conservation International、Bird Life International、American Bird Conservancy、Alliance for Zero Extinction などから重要な保護地区とされている。

現在、特に絶滅が危惧されている種は、鳩の一種で Socorro Dove (野生ではすでに絶滅してしまった)、水鳥の一種で Townsend's Shearwater (約 1000 のつがいがいる)、まねしつぐみの一種 Socorro Mockingbird とオキノテリハメキシコインコ Socorro Parakeet (*Aratinga brevipes*) (どちらも 500 羽ずつ残っている)、などの 4 種である。保護活動を行っているのは、Island Endemics Foundation と Endémicos Insulares A.C. であり、この鳩をもう一度野生に返すプログラムを進めている。このプログラムのパートナーは、10 の EU の国、US とメキシコである。

メキシコの大学、The Instituto de Biología at Mexico's National University は羊によって荒らされた土地の植樹を進めている。コロンビア大学 The University of Colima とメキシコの団体 the Grupo de Ecología y Conservación de Islas は、島から羊を取り除く予定である。これらを行うためにその他の政府機関も協力している

Socorro Dove Project (ソコロ鳩のプロジェクト) は、世界的な協力を喚起した。今年、アメリカの保護団体 the American Bird Conservancy and Conservation International はこれらの 4 種とミソサザイの一種 Socorro Wren をモニターするプログラムに資金を提供している。この保護活動を成功させるためには、まだサポートが必要だ。

A new hybrid population of *Agapornis personatus* x *A. fischeri* near Arusha

ハイブリッド個体群 キエリクロボタンインコ x ルリゴシボタンインコ

By WERNER LANTERMANN

キエリクロボタンインコとルリゴシボタンインコはどちらもタンザニアに生息する。以前は、接触することのなかったこの 2 種が、ペット鳥の放鳥 (意図的か、そうでないにしても) の所為であろう、ハイブリッド個体群が観察されている。2004 年のタンザニア訪問で、新たなハイブリッド個体群が、キャンプサイト (Meserani Snakepark) で発見された。これらがどのようにして始まったのかははっきりわからない。

Military Macaw nesting cliff in Otachique, Chihuahua, Mexico

ミドリコンゴウインコの営巣、メキシコのチワワ、オタチケにて

By JAVIE CRUZ-NIETO, GABRIELA ORTIZ-MACIEL, MIGUEL CRUZ-NIETO, MANUEL BUJANDA-RICO and ERNESTO ENKERLIN, Photos by JAVIER CRUZ

オタチケというこの場所は、古代文化が残っており、そこにミドリコンゴウインコが巣をつくる。ミドリコンゴウは絶滅の危機に瀕し、原因は、捕獲と生息地の破壊である。2004 年の調査では、12 の巣を確認した。そして、2005 年には 25 の巣を見つけた。

この掛けは約 700m の高さで 14 km にわたる。ここでは、ハシブトインコの巣も同じ地域に見られる。ここは、エコツーリズムに向いている場所かもしれない。現地民はキャビンを建て、フィッシング、ライディング、ハイキング、キャンピングのツアーを行っている。しかしながら、コンゴウインコは、近くの農家の桃を食べるということで、インコの繁殖期にまだ、時々、撃ち殺されている。

ミドリコンゴウが抱えている問題がはっきりしているので、来年は、この鳥の生殖率と果実に対する被害を調べたい。それによって、何とか、現地の桃園の被害を抑え、コンゴウインコを保護したい。この研究はメキシコのチワワ州で最初に行われるミドリコンゴウインコの保護活動で、オウムの保護と、農家の必要性のバランスをとるいい機会になるであろう。

Psitta News——シタニュース

Rediscovery of Australia's illusive Night Parrot

ヒメフクロウオウム (オーストラリア) の再発見

1990 年、クイーンズランドの道端で死んだヒメフクロウが確認されたのを最後に、見られていなかったこの鳥が、ビルバラ地方 (西オーストラリア) で、再発見されたい。

アンドリュー フォレスト (Andrew Forrest) の元で働いていたエコロジスト達が、ヒメフクロウを 3 羽見つけ、それは、明らかにその鳥だったという。

その土地は、オーストラリアの大富豪の女性とフォレスト氏の鉱山ライバルのジナ リナート (Gina Rinehart) によって所有される放牧地である。リナートさんは、2015 年に放牧のリースが終わる時、保護地区として守られるようお願いしてきた。しかし、フォレスト氏の鉱物会社 Fortescue Metals Group は、採鉱の借地権があり、何百万もかけての開発を強行するつもりだ。この会社はこの鳥の保護管理に関するレポートを提出している。

http://www.theaustralian.news.com.au/common/story_page/0,5744,16996493%255E30417,00.html

The Weekend Australian, Paige Taylor, Oct 22, 2005

\$1.3m funding to protect rare birds

希少鳥を保護するための予算 1,300,000 ドル

アカオクロオウム Red-tailed Black Cuckoo (*Calyptorhynchus banksii*) を含むオーストラリアの鳥類の絶滅危惧種を守るために、政府は 130 万ドルの資金を用意する。キャンベル環境大臣がこの計画を明らかにした。多くの鳥は、巣にできる穴のある木や餌を探すのに適した生息地が必要だ。政府の森では、それらは守られているが、個人所有

の土地でもそれらを守る必要があると、彼は言った。この計画は、フェンスをたてて、植物を家畜から守ったり、植樹をしたりするものも含まれている。

<http://www.smh.com.au/articles/2005/10/19/1129401291105.html>

Australian Associated Papers Ltd, October 19, 2005

Lory meeting in June

ヒインコ類についてのミーティングが6月に開催

ヒインコ類が好きな人のためのミーティングが、ローズマリー ローさんによって開催されます。6月4日日曜日1時30分に Shirebrook Village Hall, Park Road, Shirebrook であり、これは Mansfield, NG20 8JR の近くです（イギリス）。ローズマリー ローがスライドショーで、餌のやり方について指導し、アラン マニングが繁殖について話します。入場料は4ポンド。収益はオウム保護に充てられます。詳しいことは Rosemary Low, 電話 01623 846430 まで。

Famous parrots face eviction in California - Telegraph Hill

有名なオウム達が立ち退きの危機、カリフォルニアのテレグラフ ヒル

By JUSTIN M. NORTON

カリフォルニアのテレグラフ ヒルという地域に、コニユア類が集まる場所がある。南米から輸入されたオウムが、何らかの形でそこに住み着くようになった。このコニユアに野生のまま、餌をやり、世話し始めたのがマーク ビトナー氏である。マークは、以前、ホームレス同然で、ある人の家の一角に居候するようになり、そこから、このオウムの群れと彼の関係が始まった。当時は、現地の人の間でだけ有名だったこのコニユア達は、彼の本と、後に彼のガールフレンドとなったジュディ アーヴィングさんが製作した映画のおかげで、北アメリカで一番有名な“野生”のオウム群れとなった。

そのオウム達が集まっていた3本の木のうちの一本が切り倒され、他の2本も切り倒されようとしている。残りの二本の伐採をマイクが体を張ってなんとか一時的に阻止したが、まだ、交渉は続けられている。マイクとその土地の所有者は今までに6ヶ月ほど交渉してきた。まだ、解決策は見つかっていない。

（英語が少し聞き取れる方には、DVDをお勧めします。オウム達がサンフランシスコで一生懸命生きる姿と、それに魅せられた以前はホームレスだったミュージシャンの彼らへの愛情に、思わず涙ぐまずにはおられない場面があります）。

マイクのサイトは

<http://www.pelicanmedia.org/wildparrots.html>

<http://www.wildparrotsbook.com/>

アマゾンでは本と

http://www.amazon.com/gp/product/0609610554/ref=pd_bxgy_img_b/002-5471555-3788849?%5Fencoding=UTF8

DVDが売られている。

http://www.amazon.com/gp/product/B000BB1534/ref=pd_bxgy_img_b/002-5471555-3788849?%5Fencoding=UTF8&v=glance&n=130

木の伐採についての記事は

<http://www.sfgate.com/cgi-bin/article.cgi?f=/n/a/2005/11/02/entertainment/e163537S90.DTL&hw=parrot&sn=002&sc=574>

Raids crack wildlife syndicate

踏み込み捜査が野生動物シンジケートを暴く

オーストラリアのビクトリアで、600,000ドル（約6千万円）の価格相当のエキゾチックバードとその卵が押収された。これは、野生動物と税関のオペレーションで行われた。押収された鳥の中には、オーストラリアでは見たことのない鳥も含まれていた。継続中の調査の一部であるこのプログラムは、オーストラリアの税関や、その他の政府機関が、9つの家宅捜査状のもと、8件の建物を捜査した。

捜査官の一人、デニス モイ氏によると、これで十分な証拠が得られたので、今後も捜査が続けられるとのこと。この捜査のおかげで、いまや、このような違法者に罪を課せられるようになったとも言う。最高で10年の懲役と/または、\$100,000の罰金が課せれる。

野生動物オフィサーのベン パーカー氏は、押収された卵の中には、東南アジア、南米、アフリカなどにいる種のものであったという。その他、違法な複数の州間の取引にも注目し、絶滅危惧種のコッカトゥーの卵も押収された（Black cockatoos and the endangered Yellow-tailed Black Cockatoo）。

<http://www.news.com.au/story/0,10117,17465774-1243,00.html?from=rss> December 05, 2005

Parrots aren't parroting bad behaviour

(省略)

Smuggled birds taste freedom again The Namibian (Windhoek)

密輸入された鳥が開放される

ナミビア国境警察によって、ナミビア-アンゴラ国境で9月に没収された66羽のクロクモインコ the Ruppell's Parrots (Poicephalus rueppelli)が、野生に返された。密輸入者は、逮捕を逃れ、アンゴラに逃げてしまった。この鳥達が密輸入された時、小さな金網のカゴ(25 x 60 x 40センチメートル)に詰め込まれており、状態はひどいものであった。環境と旅行業大臣のアーウィン ティクアが、ウィンドエクのリハビリテーションセンターにこの鳥達を自ら運んだ。鳥達は、そこで一ヶ月の間、傷を治療してもらったり、寄生虫の除去をもらったり、栄養不足を直してもらったりした。

<http://allafrica.com/stories/200511070692.html>

November 7, 2005

A new accomplishment

By AIMEE MORGANA

新たな成果(話せるだけでなく、テレパシーが使えるヨウム)

(背景説明) ニキシというヨウムが、ニューヨークにいる。日本では、ペパバーグ博士のアレックスが有名だと思うが、ニキシは、アレックスにも負けず、アメリカではかなり有名だ。チンパンジーの研究で有名のジェーン グダール博士がホストをつとめたケーブルテレビ、アニマルプラネットの番組で、ニキシは紹介された。ニキシは、テレパシーが使える。

ニキシの飼い主が、テレビ製作側から封筒に入った何枚もの写真を渡される。彼女はその写真を一枚ずつ見るのだが、それらの写真を見るのはニキシからかなり離れた別の部屋で見る。彼女は、何も言わずにそれらの写真を、一枚一枚、取り出し、ゆっくりと眺めていく。撮影用のカメラは、その飼い主の部屋と、ニキシの部屋に、一台ずつ設置され、同時に撮影している。例えば、飼い主が、タクシーの写真を見ると、離れた部屋にいるニキシは「車に乗らなければ」とか、写真に関係ある独り言をいう。このようにして、何十枚もの写真で、彼のテレパシーの能力を試していく。(成功率は、覚えていないが、確か、60%か70%だったと思う)。

(要約) ニキシは自己記録を更新した。動物が作った文法的に認められる文章で、一番長いものだ。

彼の発した文は、"Remember, we had the sick, but then we had to go to the doctor, my body."

(私たちは病気になった、でも、医者に見てもらわなくてはならなかったよ)

この飼い主は、以前病院で検査を受けて、その結果をちょうど受け取ったところだった。この文は16の単語から成っており、動物が作り、記録された中では、一番長いものと同じだ。その文は、チンパンジーのニム Nim によって作られた。しかし、彼の文は、文法的な構成がない。彼の作った文は、"Give orange me give eat orange me eat orange give me eat orange give me you."

ニキシの作った文には、彼特有の間違ひがある。例えば、飼い主に悲しいことが起こった時など、それに自分も含めてしまうことだ(WEを使って)。これは、飼い主とニキシのつながりの深さを示している(らしい)。ニキシのボキャブラリーは1150語になった。ニキシについてはここ(英語) <http://www.sheldrake.org/nkisi/>

Woman arrested for stuffing bird into bra By Associated Press

ブラジャーに盗んだ鳥を隠していた女性逮捕される

フロリダに住む女性が、盗んだオウムをブラジャーに隠し持っていた件で、逮捕された。ジル キンスペル Jill Knispel 35歳は、ベニコングウインコ Green-wing parrot (Ara chloroptera)——2000ドル(約20万円)相当——を彼女の雇用主(繁殖家)から盗んだ。キンスペルは、そのオウムを1964年型のフォルクスワーゲン車と取引しようとした。車の持ち主に、この鳥を盗んだ話をしたが、車の持ち主は、彼女の雇用主と友達であったため、発覚した。DNAテストで、この鳥の出所も確認された。このニュースはここで(英語)

<http://www.newsday.com/news/nationworld/world/wire/sns-ap-bird-in-bra.0.5097276.story?coll=sns-ap-world->

November 10, 2005, 7:42 AM EST

Parrot squawks on woman's affair ——ヨウムが浮気を告げ口

8歳のヨウム(ジギー)が"I love you Gary"(ゲリー、愛してるわ)と言ったので、飼い主(クリス テイラー 30歳男性)は、彼の恋人(スージー コリンズ)の浮気に気がついた。スージーは、彼女の元同僚である、ゲリーと何ヶ月も浮気をしていた。クリスが携帯電話に答えると、ヨウムのジギーが「ゲリー、元気？」というので、クリスは、何かがおかしいと気づいた。テレビからゲリーという名前が聞こえると、ヨウムのジギーは、キスをする音も出す。クリスは、彼の恋人スージーと一年近く一緒に住んでいたが、この件に関して、問い詰めると、スージーは浮気を認め、彼の家を出て行った。

クリスは、その後、長年一緒にいたヨウムのジギーも手放した。スージーが裏切ったのだから、スージーが去って行ったことを悲しいとは思わないが、ジギーと別れるのは辛かったと、クリスは言う。クリスは、ヨウムのジギーが、浮気相手のゲリーの名前を呼び続け、裏切ったスージーの声で喋り続けるのを聞くのが耐えられなかったのだ。

浮気をしたスージー 25歳はニュースのインタビューに、「自分のしたことを誇らしいことだとは思わない。でも、私とクリスの間に色々問題があったことにまず気づくのは、クリス自身だと思うのよ」と答えている。

その後、ジギーは、他の家にもらわれていった。

このニュース（英語）はここで <http://news.bbc.co.uk/1/hi/uk/4619764.stm> 17 January 2006

Karate experts hired to control parrots——オウムを追い払うため空手専門家が雇われる

銘柄の車を売る者達が、彼らの車をオウムに荒らされるのを防ぐために、空手専門家達を雇ったとメディアが報道した。空手家は 40 人ほどで、140 台ほどの車を守る。車のディーラーは、ニュージーランドのクック山の近くにある。キア、または、ミヤマオウム Keas (*Nestor notabilis*) は、光るものを探すために、車を傷つけるので知られている。キアは保護種である。近所のホテルのマネージャーによると、空手家達は、空手の動きを使って、オウムを追い払うだけであるという。現地の野生動物レンジャーは、空手マスター達は、キアを追い払うことなどできないだろうと言う。「キアはその辺を飛び回って、笑ってるだろうよ」。キアを追い払うには、水鉄砲が一番だとも付け加えた。ニュース（英語）は、ここで <http://abcnews.go.com/International/wireStory?id=1574389>

WPT wins 2006 IAATE Conservation Award——IAATE はWPT に保護賞を授与する

鳥類トレーナーと教育者の国際協会——The International Association of Avian Trainers and Educators (IAATE)——は、WPT に保護賞を授与した。この賞は、EU で、野鳥の貿易を終わらせるために WPT がしてきたことを称えたものである。この賞とともに、アオキコンゴウインコの保護活動への奨学金 \$ 1,000 (約 10 万円) をも受け取った。IAATE は、動物と保護活動について、一般市民を教育する専門家の集まりである。動物園、水族館、自然センター、公園、学校などでその教育活動を行っている。IAATE に属する個人や団体の多くは WPT とパートナーシップを組んでいる。IAATE は鳥の保護に尽力し、WPT でもその活動に関してはシタシーンで紹介してきた。彼らの献身には感謝してやまない。

Parrots in the Wild - Socorro Parakeet

Aratinga brevipes

By © JUAN CORNEJO / Africam Safari

(要約なし)